

26.8.29
宮日

魚放流や釣り楽しむ

串間 本城小児童ら体験会

生き物、河川環境の大切さを感じてもらおうと、串間市淡水漁業協同組合（河野日出男組合長）は25日、同市桂原橋そばの福島川親水公園で、魚の放流と釣り体験会を開いた。本城小（石川和明校長、76人）の3、4、6年生と保護者、教諭6人が参加した。初めに同組合と親交のある

宮崎、延岡市の業者から仕入れたヤマメ3千匹、ウナギの稚魚10匹を放流。児童らはウナギのめぐるめぐるする感触に歓声を上げながら川に放ち、元気に泳いでいくのを見守った。続いて釣りに挑戦。ネットを張り、川をせき止めて造った縦約20尺、横5尺の釣り堀に放ったニジマス300匹を狙った。餌のイクラを針に付けることや、釣れたニジマスを外すことに悪戦苦闘しながら、友達と釣果を競っていた。釣ったニジマスは昼食で

塩焼きにされ、参加者が笑顔で頬張った。初めて釣りをしたという4年生の野辺詩織さん（9）は

「ビクビクと手に伝わる感触が楽しかった。放流した魚は大きく成長してほしい」と話していた。



川をせき止めた釣り堀でニジマス釣りを楽しむ本城小児童